

診療情報を利用した臨床研究について

虎の門病院消化器内科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた記録をまとめるものです。この案内をお読みになり、ご自身またはご家族がこの研究の対象者にあたると思われる方の中で、ご質問がある場合、またはこの研究に「自分または家族が診療情報を使ってほしくない」とお思いになりましたら、遠慮なく下記の相談窓口までご連絡ください。

【対象となる方】

調査対象となる期間： 2012年1月1日から2022年10月30日の間に虎の門病院で大腸SM深部浸潤癌に対して内視鏡的粘膜下層剥離術を受けられた20歳以上の方。

【研究課題名】

ESDで深部断端陰性で切除可能な大腸pT1b癌の特徴

【研究の目的・背景】

《目的》

大腸SM深部浸潤癌に対して内視鏡的粘膜下層剥離術で断端陰性切除可能な症例の特徴を明らかにすることです。

《研究に至る背景》

大腸SM深部浸潤癌の一般的な治療は外科手術となります。しかし、SM深部浸潤以外に外科切除適応となる因子がない場合には、経過観察した場合と外科手術をした場合には転移再発率に差はないことが報告されています。また、大腸SM深部浸潤癌に対して内視鏡治療を先行した場合と、最初から外科切除を行なった場合に予後や合併症に差はないことも報告されています。そのため、大腸SM深部浸潤癌であっても診断的に内視鏡的粘膜下層剥離術を行う機会が増えると予想されます。しかし、切除可能な大腸SM深部浸潤癌の特徴はわかりません。今回、その特徴を明らかにすることで今後の大腸SM深部浸潤癌の治療に貢献することが期待できます。

【研究のために診療情報を解析研究する期間】

2023年6月26日 ～ 2024年12月31日

【単独／共同研究の別】

虎の門病院単独研究

【個人情報の取り扱い】

お名前、ご住所などの特定の個人を識別する情報につきましては特定の個人を識別するこ

とができないように個人と関わりのない番号等におきかえて研究します。学会や学術雑誌等で公表する際にも、個人が特定できないような形で発表します。

また、本研究に関わる記録・資料は 虎の門病院、布袋屋 修のもと研究終了後 5 年間保管いたします。保管期間終了後、本研究に関わる記録・資料は個人が特定できない形で廃棄します。

【利用する診療情報】

診療情報：診療録、看護記録、薬歴、内視鏡記録、CT データ、検査データなど

【虎の門病院における研究責任者】

消化器内科 ・ 布袋屋 修

【研究の方法等に関する資料の閲覧について】

本研究の対象者のうち希望される方は、個人情報及び知的財産権の保護等に支障がない範囲内に限られますが、研究の方法の詳細に関する資料を閲覧することができます。

【ご質問がある場合及び診療情報の使用を希望しない場合】

本研究に関する質問、お問い合わせがある場合、またはご自身またはご家族の診療情報につき、開示または訂正のご希望がある場合には、下記相談窓口までご連絡ください。

また、ご自身またはご家族の診療情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、 2023年12月31日 までの間に下記の相談窓口までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様にご不利益が生じることはありません。

【相談窓口】

虎の門病院 消化器内科 ・ 早坂 淳之介

電話 03-3588-1111(代表)